

●特集 2：ロボカップ 2017

ロボカップ世界大会プレイイベント - 東山動物園ナイトZOOで3400人が来場 -

中京大学 工学部 機械システム工学科 教授 青木 公也
中京大学 工学部 機械システム工学科 教授 沼田 宗敏



ロボカップ名古屋世界大会 2017 のプレイイベント「ロボカップが東山にやってくる！」が 2016 年 8 月 11 日（木祝）・12 日（金）の夕方、東山動物園の動物会館レクチャーホールで開催され、サッカーロボットや人工知能に関するデモ展示が行われました。メイン展示を依頼された中京大学からは、工学部・人工知能高等研究所より 3 研究室が出展しました。

まず、沼田研究室は「ものまねサッカーロボット」を出展しました。これは、昨年・一昨年のロボカップ・ジャパンオープンで 2 連覇を果たした小型ヒューマノイドロボットに、モーションキャプチャを使ってサッカープレーを教え込むシステムです。子どもたちの足の動きのとおりロボットが動き、勢いよくシュートするとまわりから大きな拍手が送られました。本ブースには多くの子どもたちが行列を作り、保護者、見物客らでにぎわいました。体験した小学生のお母さんは「ロボットが動きをまねできるなんてすごい！」と感動していました。

青木研究室の出展は「人工知能（ディープラーニング）が選ぶ 10 年後の君」で、子どもたちの顔を小型カメラで撮影し 10 年後の顔に最も近い有名タレントの顔を推定します。人工知能技術には今最も注目されている、最先端のディープラーニング（深層学習）を使用しました。約 10 秒で判定結果が表示されると人垣から大きな歓声があがりました。

奥水・舟橋研究室は愛・地球博に出展した「にがおえコンピュータ」をマイナーチェンジし、普通の「にがお絵」に加えて動物風の「にがお絵」もプリントアウトできるようにしました。

本プレイイベントはロボカップ 2017 名古屋大会開催委員会（会長河村たかし名古屋市長）より工学部・人工知能高等研究所の 3 研究室が出展要請を受けたものです。

2 日間でわずか 6 時間の開催時間でしたが、3 研究室計で 3400 人の来場がありました。



混雑する中京大の展示ブース